



# 京都溝尻集落における舟小屋の発展と展開



## DATA

- 主な連携先・メンバー  
溝尻漁師 村上純也氏 / 溝尻電器店主・漁師 後藤幸男氏 / 溝尻住民の方々
- 活動地域  
京都府宮津市溝尻
- 活動期間  
2019年度
- 活動資金  
関西大学地域連携活動に対する補助事業

## 活動の目的

溝尻にある舟小屋の価値を再認識し、漁業だけでなく様々な利用方法を考案することによって、老朽化し放置された舟小屋の発展と展開を目指す

## 連携にいたる経緯

漁業従事者の減少や高齢化、耐久性の高いFRP製の漁船の出現、漁船の大型化、漁港の整備などにより、舟小屋の必要性が減少するとともに、老朽化し放置されているものが多くなっていくことから、その価値の再発見および利用方法を考案することとなった。

## 活動内容

舟小屋の老朽化や放置による危険性、景観の悪化、伝統的集落や伝統的漁法の消滅危機とともに、舟小屋の再生、再利用による集落の活性化が課題であった。そこで、学生と住民が集落内を歩き、舟小屋の現状や使用状況を調査し、問題点を整理した。そして、集落には舟小屋だけでなく母屋や隠居と呼ばれる居住施設があることから、それらの関係性や生活空間および住民の生活スタイルを明らかにし、今後の課題について話し合った。また、漁船に乗り海から集落を見ることで、舟小屋群の景観的価値の再認識・再発見などを行うとともに、美しい景観を維持していくための対策や舟小屋の構造及び工法、材料について意見交換を行った。また、近隣にある伊根の舟屋との地理的、歴史的相違を利用した差別化についても検討し、さらには、隣接する日本三景の一つである天橋立との関係が重要であるため、天橋立との共存や相乗効果について話し合った。



## 活動の成果

- 1 舟小屋を漁業体験のような体験型の施設に利用・転用できる可能性があることがわかった
- 2 溝尻の舟小屋特有の棧橋を生かすことが、集落の個性やアイデンティティの形成に重要であると考えられた

## 今後の課題・目標

- 1 舟小屋の維持や舟小屋の利用方法、さらには舟小屋の付属物のあり方など、美しい景観を持続するための施策を住民の方々と意見交換しながら考えていく
- 2 集落における舟小屋や母屋等と住民の居住様式の関係性を明らかにするとともに、舟小屋の木造伝統構法、材料などを調査し、設計課題や空間設計の題材として取り組む

## 教員紹介



■ 環境都市工学部 教授

亀谷 義浩

Yoshihiro Kametani

建築計画・都市計画を専門とし、美しく個性あるまち並み・景観から、高齢者・障害者のための福祉空間デザイン、さらには、エネルギーや生物多様性など地球環境を配慮したグリーンビルやサステナブル都市まで幅広く研究している。